

まちの「今」をお届けします

商工センター跡地の再開発と周辺整備 LABV プロジェクト始動

LABVとは、自治体が市有地を現物出資し、民間事業者等が資金出資してつくる事業体が、公共施設と民間収益施設を複合的に整備・運営する事業手法で、全国でも先進的な取組です。今回、9者(下枠参照)が山陽小野田LABVプロジェクト合同会社を設立。8月30日にセントラルホテルで記者会見が行われ、関係者11人が出席しました。藤田剛二市長は「本市の未来を切り開くこのプロジェクトを力強く推進したい」と話し、山本計至合同会社職務執行者は「ハード面だけでなくソフト面にも力を入れ、市に溶け込む施設運営をしたい」と思いを述べました。

本プロジェクトは、商工センター跡地を活用した複合施設の整備をはじめ、そこから半径1kmエリアの複数の事業候補地で連鎖的に事業を実施し、居住・交流人口の増加やまちの活性化、エリア価値の向上を目指します。複合施設には市民活動支援センター、小野田商工会議所、山口銀行小野田支店、山口東京理科大学の学生寮などを整備し、令和6年(2024年)からの供用開始を目指しています。

山陽小野田LABVプロジェクト合同会社

山陽小野田市、小野田商工会議所、山口銀行、合人社計画研究所、大旗連合建築設計、前田建設工業、富士商グループホールディングス、長沢建設、エヌエステクノ



複合施設の設備を説明する山本職務執行者



左から河本さん、長谷川教育長

少年の主張コンクール県大会 河本芽郁さんが最優秀賞

中学生を対象とした令和4年度の少年の主張コンクール県大会で小野田中学校2年生の河本さんが最優秀賞を受賞し、8月31日、市役所で、長谷川裕教育長に受賞の報告をしました。

8月20日に山口市で開催された県大会では、審査で選ばれた8人が発表。河本さんは学校運営協議会の熟議で、地域のみなさんが地域や学校に愛着を持っていること、自分も地域の一員であることに気付かされた経験を基に、「未来へのバトンは私達に」というテーマで発表。地域から愛される学校を目指すこと、次代を担う地域の一員になることを誓いました。

報告会で河本さんは「発表するまでは不安だったが、発表が始まったら自分の世界に入り込み、堂々と思いを伝えることができた」と話し、長谷川教育長は「自分の意見を主張できることはとても大切なこと。地域の一員としての自覚が芽生えていることも素晴らしい」と称えました。

同大会は物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身につけることが目的。発表内容は家庭、学校生活、社会との関わり、未来への希望などで、今年度は15校890人の応募がありました。河本さんが中国・四国ブロック代表に選ばれた場合、11月に開催される全国大会に出場します。